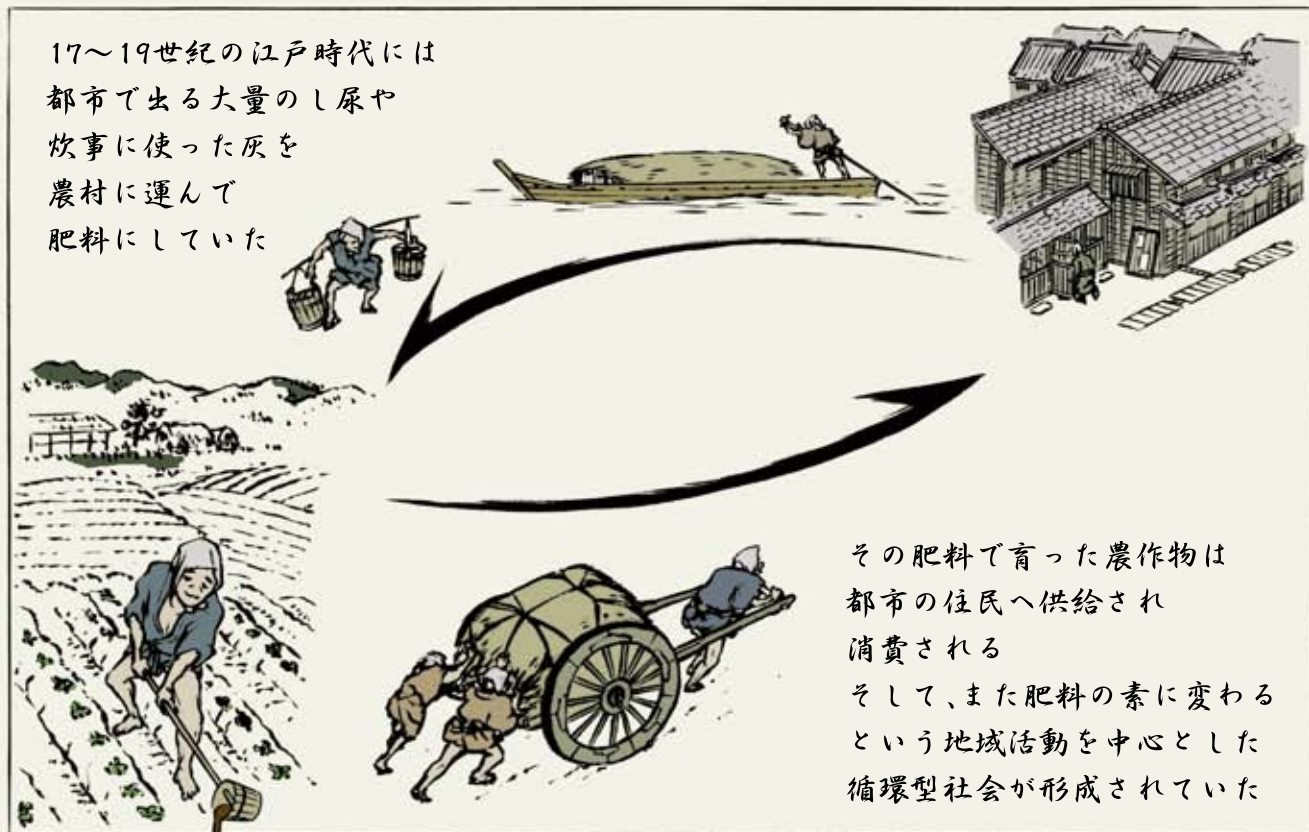
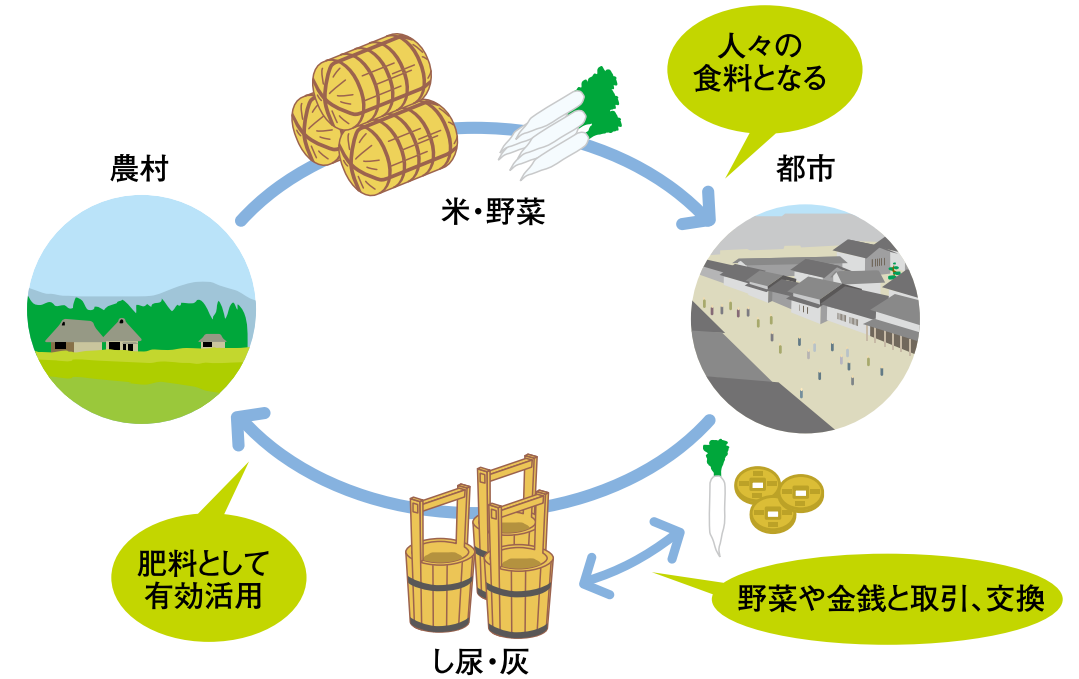


江戸の衛生的な循環システム



◆江戸の循環システム

江戸時代には、循環型社会の構築にあたって参考にすべき、優れた循環システムがありました。その一例がし尿の有効活用です。し尿は放置すると悪臭を放ったり、伝染病の発生源となったりして、生活に害を及ぼします。しかし、日本では都市で発生する大量のし尿を農村部へ運び、これを肥料として有効活用していました。さらに、し尿はただで引き取られただけではなく、金銭や野菜と交換されていました。これによって、し尿が農村部で肥料として利用され、それによって育った作物が都市で消費され、またし尿に変わる、という循環システムが見事に出来上がっていたのです。



◆ごみの適正処理システム

江戸の廃棄物処理システムも、現代に通じる、すぐれた仕組みです。江戸時代の初期には、ごみは空き地や川へ投棄されていました。しかし、交通路の阻害や悪臭などの弊害に住民が悩まされたため、奉行所はごみの投棄を禁じ、深川永代浦（今の東京都江東区）をごみの処理場に指定しました。さらにごみの処理業者も指定し、一定の場所に集められたごみを処理業者が処分する仕組みを整えたのです。これによって、江戸時代のごみ処理は、収集・運搬・処分という3つの過程によって、厳格に行われていました。ごみを指定場所以外に捨てることを禁ずる法令も多く出され、現代の不法投棄対策とも通じる、適正処理の仕組みが整えられていました。また、永代浦の廃棄物が分解して土壌を形成したため、ごみから出来た土地も新田として開発されていたようです。